

令和4年度 都城市立高崎小学校 学校評価

1 学校経営ビジョン

五気にあふれる たか・ザ・キッズの育成 ～ 校訓「元気、勇気、やる気、根気、気配り」～

2 学校の教育目標

教育目標	五気にあふれる たか・ザ・キッズの育成		
めざす学校の姿	めざす児童の姿	めざす教師の姿	
<ul style="list-style-type: none"> ○ あいさついっぱい学校 ○ 学びいっぱい学校 ○ 夢いっぱい学校 ○ 美しいいっぱい学校 ○ 笑顔いっぱい学校 	<ul style="list-style-type: none"> 元 気 たくましい子 勇 気 チャレンジする子 やる 気 かしこい子 根 気 やり通す子 気配り やさしい子 たか・ザ・キッズ 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 情熱と責任をもち、職務に励む教師 ○ 指導力向上を図る教師 ○ 積極性・専門性のある教師 ○ 子供とともに学ぶ教師 ○ 愛情に溢れ信頼される教師 	

3 学校評価の結果

「自己評価」・「自己評価の適切さ」 = 4:期待以上 3:ほぼ期待通り 2:やや期待を下回る 1:改善を要する

項目	教育的課題	ゴールイメージと達成手段	評価指標	アンケートでの肯定的回答の割合(%)			学校の自己評価		学校運営協議会委員の評価		改善策
				児童	保護者	教師	自己評価	自己評価の適切さ	意見等		
										成果と課題	
知育	学力の向上	○基本的な学習習慣の定着	○家庭学習を毎日している。	89	87	92	○「家庭学習がんばりカード」に取り組む週間を設けたことで、児童・保護者共に家庭学習の習慣化について啓発することができた。 ○忘れ物が常態化している児童がいるため、今後も粘り強く指導を続けていく必要がある。 ○正しく丁寧な文字を書くことは、声掛けをおこなっているが個人差がある。 ○オンラインで他校とつながったり、週末や長期休業にタブレット端末の持ち帰りをしたりするなど、積極的に活用を進めることができた。 ○学習支援が必要な児童が、日常的にタブレット端末を持ち帰って家庭学習に取り組めるような環境整備も今後必要になる。 ○児童の発言意欲や多様な考えを引き出す場の設定が十分にできなかった。 ○聞き方は、教師と児童の意識の差が大きい。よりよい話の聞き方について指導していく必要がある。 ○コロナ対策で図書室の貸出や家庭への持ち帰りの制限があり家庭の評価が低かった。 ○日頃の挨拶や返事の指導に加えて「あいさつ模範運動」や「あいさつリレー」などの取組を通して、挨拶や返事への意識が高まっている児童は増えている。 ○「さん」付けの指導の徹底が必要である。学校の場と少年団などの場で使い分けをする指導が大切である。 ○「心のアンケート」等を通して、児童の交友関係や気持ちに寄り添う指導ができています。 ○善行児童、五気賞などの賞賛の場を設けたり、各学級でも声掛けを続けていったりしたことで、意識の高まりが見られた。高学年のボランティアをする姿を見た下学年の児童も実践意欲が高まっている。	2	3	○忘れ物については、連絡帳等で保護者が確実に確認できる体制づくりが必要ではないか。 ○家庭学習や学習が気になる児童について、社会福祉協議会や地域と一緒に支援体制をつくってほしい。 ○ICT活用については、日常的に学校や家庭でタブレットを使用する環境となっている。今後さらに幅広く活用してほしい。 ○進んでの発表は、学級内の人間関係にも左右される項目である。多様な考えを認め合う雰囲気づくりも大切だと思う。 ○土日や休業期間にまなび館(支所内の図書館)が利用できるとよい。	・なぜ、家庭学習が必要なのかについて児童だけでなく、保護者にも説明をしていく。 ・家庭学習に取り組む時間の目安を各学年ごとに提示したが、その時間設定になっている理由について児童・保護者にはっきりと伝えていく。 ・忘れ物の指導については、家庭と連絡を取り合い、準備をする習慣が定着していくようにする。 ・発達段階や文字を書く場面に応じた書き方の指導を行っていく。 ・手を挙げて発表をすることだけが、自分の意見を表現する場とならないよう、授業内容を工夫していく。 ・「学習のきまり」の聞き方について、具体的な指導を継続していく。
			○学習準備物の忘れ物がない。	92	86	86					
			○文字を正しく丁寧に書いている。	80	73	75					
		○基礎・基本の確実な定着	○毎日の授業がよく分かっている。	89	83	92					
		○ICT活用の推進	○タブレットの使い方が分かり、進んで活用している。	95	85	100					
		○表現力・思考力の育成	○自分から進んで発表している。	64		62					
			○先生や友だちの話をよく聞いている。	92		50					
○読書活動の充実	○進んでたくさん本を読んでいる。	86	54	100							
徳育	豊かな心の育成	○基本的な生活習慣の確立	○誰にでも進んであいさつができる。	80	79	45	2	2	○登校見守り活動をしているが、挨拶をよくしてくれるので元気をもらっている。 ○挨拶については、中学生の実行の動機等を紹介することで挨拶の意識が高まるのではないかと。 ○今後、福祉教育等の学習もぜひ強化したい。 ○地域での挨拶が少ない。地域での関わりが少なくなっているのも原因ではないか。地域や家庭でも連携して取り組んでいく必要がある。	・中学校と連携して、中学生の良い挨拶の姿を見せることで、挨拶の意識をさらに高めたい。 ・相手の人権を尊重するうえで、「さん」を使い分ける指導を行っていく。呼び捨てや乱暴な言葉が見られるので、時と場に応じた使い方を指導する。 ・友達を大切にするという意味も含めて言葉遣いに配慮できるような指導をしていく。	
			○気持ちのよい返事をする。	77	90	50					
		○自他ともに大切にしている心の育成	○友だちを呼ぶときは、「さん」をつけて呼んでいる。	66		47					
			○友だちと仲良くし、親切にしている。	96	98	85					
		○ボランティア心の育成	○進んで清掃やボランティアに取り組んでいる。	78		71					

項目	教育的課題	ゴールイメージと達成手段	評価指標	アンケートでの肯定的回答の割合(%)			学校の自己評価		学校運営協議会委員の評価		改善策
				児童	保護者	教師	成果と課題	自己評価	自己評価の適切さ	意見等	
		○安全教育の推進	○命を大切に安全に過ごしている。	96	/	85	○地区集会や登校班長会で登下校のルールを指導してきたことで、一列歩行での登校はできている。横断歩道の渡り方は今後の課題で、学校でも指導を続けていく。			○放課後や休みの時、自転車に乗っている姿を見かけますが、交通ルールをどれだけ認識しているのかわからない。	・学校での安全についての意識が児童と教師との間で差があるため、モデルを示していきたい。 ・室内での過ごし方、廊下歩行等の安全意識の向上は共通実践事項として取り組んでいく。 ・集団登校の意義や車送迎の仕方の確認を年度始めだけでなく、学期の始めに再度保護者に周知していく。
			○廊下歩行を守っている。	86	/	41	○安全な廊下歩行ができていない児童も見られるので、「はさみ歩行」の徹底を行う。			○下校時、横断する時に手を挙げて、渡り終わったらお辞儀してくれる児童が多い。	
			○交通のきまりを守っている。	97	95	/	○交通安全の誓いで意識付けを行っているが、行動に反映されていない児童もいる。				
体育	体力の向上	○食育を含む健康的な生活習慣の確立	○早寝早起きをしている。	82	86	/	○高崎地区共通で、保護者に呼びかけ早寝・早起き・朝ごはんの習慣化が図られた。	2	2	○健康維持は基礎体力をつくることなので、特に昼休みは元気に外で遊んでほしい。 ○「早寝・早起き・朝ごはん」は大事なことなので今後も続けてほしい。	・早寝・早起き・朝ごはんが100%に近づくようにさらなる啓発を図ってほしい。 ・家庭での手洗いうがいについては、参観日や通信等で呼び掛けをしていく。 ・栄養教諭による食育授業で、好き嫌いをせずに食べるなど児童の実態に応じた内容を実施するよう授業内容を計画する。 ・家庭でできる体を動かす遊び等を、参観日や通信等で呼び掛けをしていく。 ・コロナ禍における体力の低下が心配されるので、保護者への啓発を行っている。
			○朝食を毎日とっている。	97	96	/	○学校での手洗いについては、声掛けをしているためできているが、家庭での取組ができていないようである。				
			○手洗いうがいをしている。	93	83	86	○全学年で栄養教諭による食育授業や遠足の日に弁当の日を設定したことで、家庭と協力して食への関心を高めることができた。しかし、好き嫌いをこよりにバランスよく食べることに限っては、課題がある。				
			○給食は、好き嫌いを残さず食べている。	87	/	93	○授業や昼休みにおける運動量は確保できている。				
		○基礎体力の向上	○目標を決めて、運動している。	79	/	84					
			○外で元気に遊んでいる。	80	75	93					
家庭・地域とともに	家庭・地域との連携	○コミュニティスクールの推進	○学校運営協議会の推進と活用を図る。	/	/	/	○学校運営協議会の方々に、運動会やTZミーティングの様子を参観していただいた。	2	3	○運動会では、児童のそれぞれの成長過程で頑張る姿をみることができ、立派であった。 ○TZミーティングは、各校の取り組み状況や意見交換はよい刺激となり、今後も積極的に続けてほしい。 ○コロナ禍でPTA活動や地域の活動が制限されてきたが、今後はコロナ禍でもやれる活動を考えていく必要がある。 ○新型コロナウイルスの影響で、今後の活動再開に向け、保護者の理解や協力が得られるかが大事だろう。 ○学校のホームページや学校だよりを通しての情報発信は、学校での様子が分かりとてもよい。	・学校運営協議会の役割について、職員や保護者への理解を深めるための方策を更に講じていく必要がある。 ・今後も新型コロナウイルス感染防止の対応が必要となるが、地域、保護者、PTAとの連携を図ってほしい。
		○適切な情報提供	○学校は、教育方針や教育活動などについて分かりやすく伝えている。	/	/	93	○登下校の見守りをいただいているおかげで、事故なく安全に登下校できた。				
		○家庭・地域との連携強化	○教師は、子どものことについて気軽に相談に応じている。	/	/	91	○学校便りや保健便り、学級通信等を定期的に発行し、学校の様子を伝えることができた。学校HPの更新に努めることができた。				
			○保護者は、PTA活動に積極的に参加している。	/	/	64	○新型コロナウイルスへの対応が変化中、PTA活動の自粛や制限もあったが、参観日等工夫して行った。				